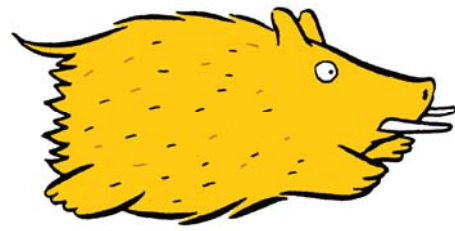




あな！トマソン隊じゃあ無いのか



猫街横濱編

by うさお

猫マチック序論

今回は猫好きなドクガクの皆様にお送りします。
特に yuko 宗匠に…。

(お囃子と共に高座に上がり、着物の膝下を扇子でなぞる様にして座布団に据わる。曼荼羅(手拭い)と扇子を前に深々と一礼、挙げた顔は万遍なく客席に巡らす。)

え～、猫ってものは、もともとは南方の動物だったようすな。日本では外来種の動物の割りに、昔から居たようで、家の中にのさばっていたようでして。平安時代にはもう貴族の方々に愛玩されていたってえ話だったそうですから。

昔はてえと、船頭さん達は猫を航海の守り神として扱っているようでしてな。特に三毛猫がご利益があったそうで…。一説には中国から經典が渡来した際に、船の中の食料を鼠に荒らされないよう、猫を乗せたんだとかって話がございまして。

その猫ちゃんが日本に住み付いちやったんでしょうかね。つまりは日本の猫は中国から来たって話でげすな。でもって、「にゃお、はおっ」って中国語を話しているんですな。

(枕を振っている間に客席に悟られないようにそっと羽織を脱ぎ後ろに滑らす。前座が目立たぬ用に来てその羽織を下げていく。次の演者の準備が整っている合図だ。最近寄席に行ったものだからうるさいんだよ。)



七島町に居たやけに足長な猫

余計な猫話



中華街で売っていた猫財布

そう言えば「猫いらずはいらんかね～え、石見銀山ネズミ捕り～い!」って物売りのキャッチが江戸時代にありましたね。亜硫酸って奴ですね。今じゃ危なくてその辺に置いとけない代物になっちゃいましたが、歯医者をやっていた叔母さんの診療室にありましたね。これで歯の神経を殺し抜いちゃうんですね。和歌山ヒ素カレー事件の林真須美を思い出しちゃうけど、もう10年も経っているんだよね。あの当時被告はまだ36歳。色々謎の多い事件だったって、猫はどうした。

美どんちゃんって誰？

ご存知の通り Cacco は「桜」と言う単語に非常に敏感です。踊場駅の取材の時に、道路際で見かけた「とんかつ さくらい」の看板に敏感に反応し、周りの道路状況に関係なく看板を撮ってしまし



た。それがこれ。

何だか太った意味不明な動物が座っているのが判りますよね。

猫の取材の前に「とんかつさくらい」ってお店の web サイトを見ていて、「美とんちゃん」ってマスコットがいるって書いてありました。これだ、「美とんちゃん」はって思っちゃいました。変でしたけど。

ついでに Google map で「さくらい」の店をストリート・ビュー*を見ると、お店の脇に見たような動物が？んっ、で踊場の写真をひっくり返してみると件の動物が、で〜んと。

*都市部の方はこのサービスが使えます。道路の青線の処に人型を置くと、上の方にその周辺の写真が現れます。360° 全周がマウスで掴む事により見ることが出来ます。便利だなあ。

場所は横浜の井土ヶ谷町。

旧東海道の街道沿いにあるお店で「さくらい」の本店だったようです。

二本の幹線道路に囲まれており、駐車場も無くお客さんが結構来難い場所と思っていましたが、やや大きな目のお店が満杯になる位に入ってきました。

もちろん「美とんちゃん」は上の看板のような仔で、この子は富士フィルムの子でした。ついでなので暖簾くぐって中へと入り、お昼ご飯にする事に。

「いらっしやいまし」「釜焼きとんかつ、二つ!」
ここの売りは、ローズでも油が少ない釜焼きとんかつ。

釜焼きと言うのはとんかつの調理法としては斬新な発想らしい。味は少しばさばさして、とんかつの肉汁の風味はありませんでしたが、うさおには健康的な食事でした。

お店の中には仲居さん 3 人、厨房 4 人と比較的大所帯。ご飯、味噌汁、キャベツのお代わり自由は食べ過ぎちゃうけど。



ともあれこれが「とんかつ さくらい」の「美とんちゃん」。看板の絵と違いほとんどまん丸だ。

これが食べた釜焼きとんかつ。お店の中に猫の傘立が置いてあった。だからね、何処が猫に関係しているかと言うと、最初の思い違いと、傘立がそうかな？

詐欺みたいだって？ う〜ん！



猫山堂奇譚



横浜と言う街は結構猫好きが居る街なのかもしれない。さっきの「美とんちゃん」はまあ、忘れて頂いて、次の猫 Shop をご紹介しましょう。

中華街のど真ん中、善隣門の直ぐ近くにあるチャイナスクエアの二階の一角に、そのお店「猫山堂」があります。中華街は本当に無国籍な街です。



折りしも横浜スタジアムでレゲエ大会が開かれていることもあって、派手な衣装に身を包んだ若い娘が沢山歩いていた。一緒にチームを組んで踊るのか、同系色、同デザインの肩出し、臍出し、足だしルックのお姐ちゃんだ。格好いいけどチョッと雰囲気怖い。

(期待した向きもあったかもしれないが、うさおはヤンキーっぽい娘にとっても恐くてレンズを向けられない。だから写真はありません。)



猫グッズ屋と言っても猫の餌は扱って居ません。あくまでも猫のアクセサリィだけです。TICA さん達の猫ビーズも置いてもらえるんじゃないかと思います。



お店の中は小さい招き猫から、バック等々の小物類がずらりとならぶ。猫好きなら3万円は使っちゃうであろう。パチスロと同じくらい危ない場所だ。

また、ここの店員の中国人の胡娘（く〜にゃん、猫っぽいね!）は、身長が170cm以上あったがお上品な大変可愛い娘でした。まるで Gliko 隊員のようなとは Cacco の弁。



この後、関帝廟近くの山口美江の輸入雑貨店に行ってみました。ご本人が居たので写真撮らせて頼んでみましたが、あっさり断られちゃいました。

「自分だけの問題では無く、ここには他のお店の方もありますので」と言われた。まあ、そうだね、芸能界を引退して実業家に変身したんだしね。

でも初老の夫婦なんだからミーハーじゃないって事が判りそうだがなあ。（ミーハーです。死語かな）

その他の猫店(猫横浜屋、濱猫)



「猫横浜屋」は先ほどの関帝廟の近くの横浜中華学園前にあります。

平日はさほどではなからうが、土日になると学校の前は遊びに来る大人達で一杯になる環境は、高校生達には余り良く無いだろうなあ。

兎も角も招き猫(矢澤さんの笑門来福を参照してください)は何処でも人気アイテムだ。



濱猫はうさおが住んでいる街（大口商店街の入口近く）にある。

いつもは何気なく図書館への道を通り過ぎていたのだが、ある時ふと気づいてしまった。

二軒分の間口を使って結構手広くやっていたのだが、この前、通り掛ったら猫グッズの展示が少なくなっていた。撤退しちゃったんだろうか?



この店の前の道を「アドマチック七島」でご報告しましたように、横浜創英高等学校の女高生さんが通る処です。

これは旨い商売である。

ご覧のようにプランターなど、品揃えは豊富だ。「きゃー可愛い！」てなもんだろうな。だが、大口はとてもマイナーな街なので、なんでこんな所に店を構えたんだろう。

それが撤退の理由かも知れない。

横浜市営地下鉄踊場駅

横浜市営地下鉄の戸塚と言うよりは、厚木の湘南台に近いところに「踊場駅」があります。この駅は知る人ぞ知る猫の駅なのです。鉄ちゃんも知っている駅なのだ。



踊場駅の外観



中から見るとこんな風です

『とつか歴史ろまん』（戸塚区役所刊）によると、
「昔、戸塚宿内に水本屋という醤油屋があり、その手拭いが一本ずつ無くなっていきました。不思議に思った主人が調べると、飼い猫のトラが咥えて逃げようとしていました。その訳は判りませんでした。ある夜、水本屋の主人がこの駅の辺りに通りかかると、猫達が手拭いで頬被ぶりをして踊って居ます。「今日はトラちゃん、居ないなあ」「あっ、居ないねえ」「あいつ、家で熱いオジヤを喰わされて、舌を火傷したんだって」「トラが居ないと踊りの調子が合わないねえ」と話している処でした。驚いた主人は家に飛んで帰り、家人に聞いた処、やはりトラにオジヤを食べさせたといいます。主人は手拭いの無くなる理由が判り、ほっとしたそうです。」

と言う話が残って居ます。真実の話は奥が深いなあ。それからこの辺りを「踊場」と言うようになりました。



この踊場駅は関東の駅百選に選出されています。猫をモチーフにしているからです。

駅の外観ですが、一見なにも変わったところは無いように見えますが、内側から見るとこんな風で上の三角の明かり取りが耳で、下の窓が目になっているとのこと。

駅の入口の底には猫のデザインの縁が付いています。朝の忙しい時には上なんか見ている人は居ないと思いますが…。



入って直ぐの天井の照明には、3匹の猫が踊って居ます。結構凝っているなと言う感じです。

この駅以外にも何らかの謂れや由緒のある駅はあるのですが、これほど楽しそうにデザインされているのは見た事がありません。

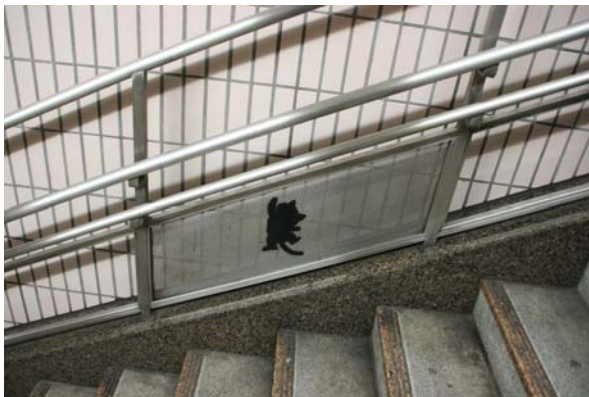
この駅はお金がかかって居ます。



ここの通路の壁は大きな猫の目になっていて、自分がまるで「猫バス」にでも乗っているようです。このタイルも特注品ですから、結構高い筈ですよ。

昔から作業現場では、「真もの」（通常のモジュールの汎用製品）と「役もの」（特注品）とがあり、「役もの」はおおよそ2倍から10倍くらいの値段の開きがありました。

（真もの：元々は単一部材で造られた材料を言います。）



階段の手摺にもこんな風な猫マークが付いていました。これ以外にもモチーフされたデザインの猫があるかもしれませんが、探し出すことは出来ませんでした。どこかに作者の隠れキャラがあるのかも。

これは子猫なのか、寸が詰まってちょっと可愛い。



「踊り場駅」の地下部はこんな感じの大きなアーチ状の空間です。上は道路です。ホーム階はこの更に下の空間にあります。

この日は日曜日だったのですが、それにしても乗客の人数が大きい街です。

このコンコースには神奈川県立上矢部高校の美術の有志が造った猫の作品が飾られて居ます。県立高校だが美術陶芸コースとか陶芸部があるとのこと。中々面白い校風です。





上矢部高生が美術作品展示
親しめる駅へ一役
地下鉄副都心駅

鳥立上矢部高生が、地下鉄副都心駅構内に、生徒たちの美術作品を展示している。展示は、上矢部高生の生徒たちが、地下鉄副都心駅構内に、美術作品を展示している。展示は、上矢部高生の生徒たちが、地下鉄副都心駅構内に、美術作品を展示している。



三ヶ月ごとに中の作品を入れ替えるのだとか、この高校生の中から未来の芸術家が出てきたら、こりゃあ凄いのだが。うさおも昔は燃えていたんだけどね。元々この地はほとんどが山地で、畑や田圃が残る超田舎でした。そりゃあ猫も踊るね。

右の写真は駅の入口近くにある、猫の慰霊碑だ。ご近所のお寺のご住職が元文二年（1737年）に建立したもの。江戸時代の中期だ。慰霊碑があるって事は猫がなんか祟ったのかなあ。

先ほどの『とつか歴史ろまん』にはもうひとつの結末があります。これだとトラは化け猫になっちゃったんだよ。

「主人はトラの傍らに立ち、「猫も齢を重ねると化けると云うが、お前もそろそろなのか」と独り言言うと、トラは「判っちゃいました？ じゃあ餞別に手拭いをひとつ下さいな」と言うと、その晩から何処かへ行ってしまいましたとさ。」（多少うさおの脚色が入って居ます）

猫の美術館

ここの館長さんは比較的有名な人らしい。佐野元春のファーストアルバム「Back to The Street」のジャケットに、海岸通り沿いの県民ホールの近くにあった輸入雑貨店『赤い靴』が写って居ます。

その場所から山手に移ったんだとか。「赤い靴」は中を改装して「猫の美術館」に変わりました。館長は坪山紗織さんと言う方で、当日は旦那さんしか居ませんでした。

うさおの記憶だと麒麟麦酒の発祥地を調べに行った時には、「猫の美術館」は山手聖公会教会（一遍、火事になりました。）の脇を曲がり、今の「ブリキのおもちゃ博物館」の辺りにあったはずだったんですが、実はあの時入ってみようと思ったのが見つからなかったんだ。

現在の場所はエリスマン邸とベーリックホール邸の間の道を元町の方に向かって行く途中にあり、高級住宅街の中にありました。う～、うさおの感性にあわねえ。



（直ぐお茶にしたがる Cacco。でも指の形が猫だぞう～ カッ!）





玄関を入ると如何にも道楽三昧をしてきましたと言ったようなおじいさんが迎えてくれます。

窓から見える景色は眼下にクリフサイド・レストラン(うさおの成人式の会場だった)を見下ろし、元町が一望の元です。



私達の後から中学生位の女の子とお母さんが来ました。私達への関心は直ぐに離れ、彼女の元へいそいそと行くおじいさん。おい、おい。

料金は 300 円。

20 畳位の部屋の中に飾られた猫のアイテムが所狭しとありますが、う〜ん、高いんじゃないのう!



その顔色を見たか、おじいさんがすするとよってきて、この絵が藤田嗣治のものだと言う。

藤田ってあの藤田か? ギャリィ・フエイクの・・・。

美術年鑑を指差し「ほらね!」と同じ絵を指す。確かに藤田(レオナール・フジタ)は猫が好きで多くの絵を描いたが・・・本物か・・・金持ちジャン。



館長の坪山紗織さんは今、パリに買付けをしに行っていると言う。雑貨ですかと聴くと、絵画だと返事が来た。旦那さんの坪山氏も奥さんが「赤い靴」を経営していた時は勤め人でしたと言う。どんな勤め人なんだとっ。

余談ですけど、香川の栗林公園内の美術館に入った時に、藤田嗣治の裸婦画を見ました。遠くからでもその絵が他のものとは違うって事が判った。印象が他の絵とはまるで違っていたのだ。どちらかと言うと全体に白い感じの淡い仕上がりになっていたのけれど、コントラストのある絵じゃないけど、いやあ、違うなあ。



藤田嗣治



坪山氏なんかのパトロンが芸術を支えているんだろうけど、そう言えば、未だに佐野元春がコンサートがある毎に誘ってくれるんだとか。猫の美術館に連れて来なさいよ。行っちゃうから・・・。

更に余談ですが、うちでは「美とんちゃん」と言うと、あの太った猫の方を言います。「美とんちゃん」はなんと、スーパー・ストア・ユニーにも居ました。吃驚です。

大仏次郎記念館

大仏次郎も有名な猫好きで知られているんだそうで、大仏次郎記念館にも猫のアイテムがあるんだとか、携帯電話の写メだから解像度は勘弁していただくして、中々雰囲気のある素晴らしいものです。



YCAT



YCATとはYokohama City Air Terminalの略で、横浜から羽田、成田などの空港にリムジン・バスが発着します。昔はもう少し川崎方にあったのですが、現在はビルのリニューアルのために横浜駅東口のスカイ・ビルの中にあります。これもほら、CATって文字が中に入っているでしょ。

えっ、最初から最後まで・・・詐欺みたいだって・・・。う～ん。

YCAT キャラクター 名称決定

YCATは平成20年度開業30周年を迎え、空港アクセスとして、成田・羽田空港へ最下最大の乗客便数を誇り、年間300万人以上の方にご利用頂いております。
（いつも心をこめて旅のお手伝い）を合い言葉に、お客様に接して参りましたが、さらに優しいYCATをめざしキャラクターを制作、名称募集いたしましたところ、450件の応募がありました。その中より5点を候補として投票募集いたしました結果333件の投票があり下記のとおり決定

※CATY(キャティ)です※
よろしくね



由佳ちゃんと遭遇

8月の暑い最中、由佳ちゃんが大学の単位の取得に東京に出て来たので、上野で落ち合うことにしました。メンバーは Cacco に TICA さん、健ちゃんの計5名だ。

上野でお洒落なところって何処？って聞かれても、確かに上野にもう10年近く勤務していますが、仕事以外ではほとんど知りませんので、「上野駅！」って答えちゃいました。



上野駅はパンダ駅。松阪屋の駅看板も店紋とパンダ紋。松阪屋は上野の顔です。

さて、待ち合わせは駅中 shop の「月の雫」だ。当日は実に暑かった。由佳ちゃんに会う時は、愛知博もそうだったが、むちゃ暑い日を選んで居るようだ。



彼らは無事会えたんだろうかと、気にしながら駅に向かった。部下には駅で人に会うので、1時を過ぎるかもと伝えておいた。ちょいと言いつめく。

う〜ん、顧客と会う訳じゃないし、営業って訳じゃないけどって、小心なうさおは少し後ろめたく会社の人に会わないように歩いてました。

由佳ちゃん達はもう来ていて、予約の部屋にいました。相変わらず由佳ちゃんはフェミニンなお洒落さんで、モノトーンで極めていましたね。TICAさんと健ちゃんは初対面のはずなのに、ぎこちないのは健ちゃん位で和気藹々としていました。

流石、TICAさんは図々しいのか百年の知己のようでした。Mixiの力は怖いなと思った瞬間でした。

健ちゃんは由佳ちゃんに「初対面の印象は如何ですか？」と聞かれ、「えっ、え〜！」っていつもの健ちゃんでは

ありませんでした。由佳ちゃんの勝ち〜い！

このあと由佳ちゃんはTICAさんとふたり浅草橋へビーズを買いに出かけましたとさ。

